令和4年度 第1回田原市地域公共交通会議会議録

会 議 名	[第60回]令和4年度 第1回田原市地域公共交通会議
開 催 日 時	令和4年6月15日(水)15:00～17:00
開 催 場 所	田原福祉センター 大会議室(3階)
出席者氏名 (敬称略)	<p>(委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○田原市副市長 鈴木 正直[会長] ○田原市都市建設部長 鈴木 洋充[副会長] ○豊鉄バス株式会社常務取締役 坂本 直也 ○豊鉄ミデイ株式会社取締役支配人 西山 恭昭 ○渥美交通株式会社代表取締役 鈴木 雅 ○愛知県タクシー協会豊橋支部長(豊鉄タクシー(株)取締役社長) (代理)長谷 泰幸 ○豊橋鉄道株式会社代表取締役社長 (代理)柴田 良昭 ○東海北陸旅客船協会(伊勢湾フェリー(株)取締役社長) (代理)中岡 賢市 ○田原市老人クラブ連合会長 光部 泰弘 ○田原市地域コミュニティ連合会長 藤井 正剛[監事] ○田原市商工会副会長 天野 英一郎[監事] ○一般社団法人田原青年会議所理事長 (代理)鈴木 嘉希津 ○国土交通省中部運輸局愛知運輸支局首席運輸企画専門官 (輸送・監査担当) 山内 三奈 ○豊橋鉄道労働組合中央執行委員長 長坂 和俊 ○愛知県都市整備局交通対策課担当課長 (代理)八木 郁也 ○愛知県田原警察署交通課長 磯貝 篤 ○愛知県東三河建設事務所維持管理課長 山口 泰志 ○名古屋大学大学院環境学研究科教授 加藤 博和[副会長][議長] ○一般社団法人渥美半島観光ビューロー専務理事 (代理)大羽 耕一 <p>(事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> □都市建設部街づくり推進課長 大羽 剛 □都市建設部街づくり推進課 都市政策係長 彦坂 洋二郎 □都市建設部街づくり推進課 都市政策係主査 清田 篤史 □都市建設部街づくり推進課 都市政策係主任 下村 英樹 □都市建設部街づくり推進課 都市政策係主事補 川嶋 勇希 □健康福祉部高齢福祉課長 小久保 智宏
欠席者氏名 (敬称略)	<ul style="list-style-type: none"> ○公益社団法人愛知県バス協会専務理事 小林 裕之 ○田原市民生児童委員協議会主任児童委員 山下 葉子 ○豊橋技術科学大学建築・都市システム学系准教授 松尾 幸二郎

<p>会長 (副市長)</p>	<p>[2 報告事項] (1) 役員の選任について ①副会長2名 ②監事2名 ※会長から役員選任の報告 副会長 鈴木洋充委員(田原市都市建設部長) 副会長 加藤博和委員(名古屋大学大学院環境学研究科教授) 監 事 藤井正剛委員(田原市地域コミュニティ連合会長) 監 事 天野英一郎委員(田原市商工会副会長)</p> <p>※会長から議長の指名 議長 名古屋大学大学院加藤教授</p>
<p>加藤議長 (名大教授)</p>	<p>[議長挨拶] こんにちは、長年田原市の公共交通に携わらせていただいて感謝しています。やはり外部の人間としては、内部に染まりすぎることなく、きちんと田原市の実情はわかりながらも、世の中の流れ等を理解してアドバイスをさせていただきたい。また、議長としては、この場で話し合った結果として、何をするのかということをも明らかにして、有意義な会議にしていきたいと考えています。</p> <p>最近では地域公共交通の価値が見直されているということもあって、田原市の理想の地域公共交通が実現できるかもしれない。そうした現場の最前線にいる私も是非ご尽力させていただければと思います。</p> <p>任期の2年間しっかりと議長としての務めを果たしたいと思っておりますので、皆様よろしく願いいたします。</p>
<p>事務局</p>	<p>(2) 令和3年度田原市公共交通利用者実績等について ※事務局より説明【資料1】</p>
<p>加藤議長 (名大教授)</p>	<p>それでは各運行事業者様からも令和3年度の実績について報告をお願いしたいと思います。</p>
<p>坂本委員 (豊鉄バス)</p>	<p>伊良湖本線については、事務局からの説明があったとおりでございます。</p> <p>最終的に昨年度は1月から3月の間はオミクロン株の影響がかなりありました。観光の方が少なかったこと、高齢者の方が外出する機会が少なくなり、なかなか若い方も増加しませんでした。</p> <p>ただ、直近の、令和4年度はまだ1か月ちょっとですけれど雰囲気が変わって参りまして、かなりお客様が戻ってきたかなと思います。このまま緊急事態宣言などが発令しなければ、なんとか今年度は明るい兆しが見えてくるのではないかと思います。</p>
<p>西山委員 (豊鉄ミデイ)</p>	<p>自社の方でぐるりんバスの運行をさせていただいております。市街地線、童浦線、サンテパーク線の利用者につきましては令和2年から3年にかけて117%増加という形になります。</p> <p>全体の傾向としましてはやはりコロナの対策が進んでいるというのが一番大きな要因かと思っています。外に出られる方というのがやはり増えているという傾向にはあります。</p>

<p>鈴木委員 (渥美交通)</p>	<p>ただ令和元年と比較しますと、利用人数におきましては戻ってきていないということです。今後まん延防止等重点措置や緊急事態宣言のない状況が続けば、利用者が順次戻ってくるのではないかと期待しています。</p> <p>お客様の流れは事務局の方に説明していただいたとおりですけれども、金・土の夜などは、人の流れも出始めております。しかし、弊社は運転手不足ということもあり、稼働率が非常に悪く、コロナとのダブルパンチということになりました。ただ、流れ的には少しずつ上向き傾向にあります。</p>
<p>長谷委員 (豊鉄タクシー)</p>	<p>豊鉄タクシーです。弊社の中山線のほう運行させていただいております。新型コロナの影響で横ばいだったということですが、令和4年度の4月と、特に5月は前年より100人ほど増加しているの、期待しています。やはりビジネスマンの方の利用がなかなか戻ってこないというのが現状であります。観光タクシーのほうにも力を入れていきたいと思っております。</p>
<p>加藤議長 (名大教授)</p>	<p>タクシーのビジネス利用が戻ってこないという話がありましたけれども、運輸局さんの資料のほうでも同じようにビジネス利用の減少が痛手であった、というデータが出ていました。事業者の皆様頑張っていたかかないといけないのですけれども、そのためにどうするかというのを話し合うのがこの会議の中身ですので是非検討していきたいと思っております。</p>
<p>柴田委員 (豊橋鉄道)</p>	<p>私どもはいつもコロナ禍前の2018年、平成30年度とよく比較しているのですが、昨年度は、渥美線トータルで輸送人員が2018年の75.6%になりました。豊橋市の市内線のほうは75.0%で、ほぼ同じではあるのですが、構成が全く異なっております。豊橋市の市内線の定期というのは昨年度すでに90%を超えております。渥美線は、83%ということで定期利用のお客様が戻っていないという状況です。定期外の方は、64.8%と低いのですが、市内線に比べればまずまずになります。今年度に入りまして、直近5月では、渥美線も75%から87%まで戻しつつあります。通勤定期も90%を超えるようになってまいりました。ただ、やはり定期外のお客様が80%まで届かないという状況にあり、割引がほとんどない定期外が伸びないと売上が伸びないという厳しいという状況が続いております。</p>
<p>中岡委員 (伊勢湾フェリー)</p>	<p>令和3年度の運航実績につきましては説明があった通りでございます。まん延防止、緊急事態宣言が発令され、当初計画、年間弊社6100便ほど運航しているのですが、令和3年度につきましては700便減という結果になってしまいました。秋口に入りまして、マイカー限定で往復利用していただいたお客様を復路無料キャンペーン、というのを10月から開始しました。それにより、かなり回復傾向で推移しております。</p>

	<p>ただ、弊社は生活航路というよりは、観光航路に支えられているところがございます。観光バスの利用がほとんどなく、令和元年度に比べて1割も満たないという状況で乗客数につきましては、令和3年度を比較しますと、半減という状態になります。</p> <p>ただ令和4年度になりまして5月の月でいきますと7割まで回復しているという状況になります。以上です。</p> <p>【質疑回答】 光部委員より質疑</p>
<p>光部委員 (老人クラブ)</p>	<p>【資料1】2.田原市ぐるりんバス全体の運行経費及び利用者実績の表中、R3ーR2にかけての収支率増減が0%になっているのですがこれはどういうことでしょうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>申し訳ございません。記載が間違っておりまして、1.3%が正しい数値となります。ご指摘ありがとうございます。</p>
<p>山内委員 (運輸支局)</p>	<p>【質疑回答】 山内委員より質疑</p> <p>【資料1】の下段の表中で、ぐるりんバスの1便当たりの乗車数の令和2年度と令和3年度を比較しており、表浜線はほぼ横ばい、中山線は減少しています。この結果になった主な要因を教えてくださいと思います。</p>
<p>事務局</p>	<p>新年度になりまして、ぐるりんバスの運行事業者の運転手さんの方に、ヒアリングをさせていただいております。数字だけではわからない部分をいろいろと教えていただいておりますが、その中で明らかになったこととお話させていただきます。</p> <p>まず表浜線中山線の共通事項として、2路線ともワゴン車両で運行しており、幹線から遠い部分を運行している路線になります。利用者の方は、毎回使われる方、ぐるりんバスがないと生活できない方が大部分を占めているという状況になっているようです。利用者数の増加がなかなかないというのは、毎回利用していただく方、常連の利用者で、新規の常連の方が増えてこないということが要因だと運転手の方に伺っております。</p> <p>常連の方が様々な理由で、バスに乗らないとか乗れなくなるといったような傾向、要は減少していく傾向はありますが、新規で増えるようなことがなかなかないようです。</p> <p>特に中山線の方につきましては、渥美地域の方がやはり、免許証がないと生活ができない、免許返納が進んでいないということで、新規のお客さんが増えていかないようです。</p> <p>以上がヒアリングで判明した内容になっております。そのような要因でこの数字になっているのではないかと思います。逆に言うとそうした方に対して、どうすれば利用していただけるようになるのか、0が1になるのかを考えて参りたいと思います。</p>

<p>加藤議長 (名大教授)</p>	<p>これからお年寄りになっていく方は大半が免許を持っており、70や80になっても結局乗り続けてしまうという状態にあります。</p> <p>運転できなくなった時が外出できなくなった時であるとか、運転できないのは社会人として失格であるという意識が人々の中に植え付けられているのではないのでしょうか。</p> <p>運転しなくても公共交通が連れて行ってくれる、バス停までの道のりを徒歩で歩くから健康に良いといったことをこちらからアピールしていき、公共交通を利用していただくように意識を変えていくムーブメントを起こす必要があると思います。</p> <p>【質疑回答】 加藤議長から坂本委員へ質疑</p>
<p>加藤議長 (名大教授)</p>	<p>令和3年度の利用者実績が減少しているのは、豊鉄バス全体としての傾向なのか、伊良湖本線・支線のみのことなのかお伺いしたいです。</p>
<p>坂本委員 (豊鉄バス)</p>	<p>伊良湖本線は観光客の方が伸びず、オミクロン株の影響を色濃く受けてしまいました。</p> <p>ただ、多方面からの支援をいただいたこともあり、令和2年度に比べると令和3年度は会社としての業績自体は赤字傾向から若干増という形になります。</p>
<p>加藤議長 (名大教授)</p>	<p>オミクロン株の影響によって、「菜の花まつり」が開催されていても観光客が増えなかったのでしょうか。</p>
<p>坂本委員 (豊鉄バス)</p>	<p>そうですね。</p>
<p>加藤議長 (名大教授)</p>	<p>このように数字ででると、改めてイベントの重要性が認識されますね。来年こそは訪れたいという方も多いと思うので、忘れられることのないようにアピールしていかなければなりませんね。</p>
<p>事務局</p>	<p>(3) 第2次田原市地域公共交通戦略計画（地域公共交通網形成計画）における実施計画に関する令和3年度の主な取組について</p> <p>※事務局より説明【資料2-1、2-2】</p>
<p>加藤議長 (名大教授)</p>	<p>それではこちらも各運行事業者様やコミュニティさんからも令和3年度の取組について報告をお願いしたいと思います。</p>
<p>藤井委員 (地域コミュニティ連合会)</p>	<p>昨年度はコミュニティにおきまして、なかなか行事ができない状況で、特に高齢の方をお呼びするような事業ができませんでした。それぞれの校区でも車でいらっしゃる方が多かったです。令和3年度につきましては手詰まりだったという印象がある。今年が分岐点だと思って力を入れていきたいと思っています。</p>

<p>加藤議長 (名大教授)</p>	<p>何か今すぐ実践できるというアイデアはありませんか。</p>
<p>山内委員 (運輸支局)</p>	<p>今すぐのアイデアではありませんが、コミュニティの行事に参加されているお母様方の中には、自分たちが打ち合わせに参加してもよいのか、企画してもよいのか等、自分の意見を上手く伝えられていないのではないのでしょうか。 何でも自由に発言してもいいという雰囲気を醸成することで、よりよいコミュニティが作られていき、公共交通にも還元されていくのではないのでしょうか。</p>
<p>加藤議長 (名大教授)</p>	<p>公共交通に乗ってくださいと直接言っても中々乗る人は増えないものです。買い物をして荷物が多いとか、お酒を飲んで運転ができないといった状況になると乗ろうという気持ちになります。乗車体験会や無料のチケットを配布するなどして、実際の体験を創造していき、きっかけ作りをしていくことのほうが利用促進につながるのではないかと思います。</p>
<p>坂本委員 (豊鉄バス)</p>	<p>これまでは子どもたち、学生さんたちの乗車が多く、送り迎えに利用していただくぐらいの位置づけでありましたが、地元の方にも今後親しんでいただけるように、渥美営業所の車庫見学を行いました。現在のバスの車庫の状態や安全対策を講じているかを説明することで、皆さんにバスを知ってもらおうということで開催しましたが、非常に好評でした。中にはバスの乗り方自体もわからない方もおられ、参加してよかったという声もお聞きました。今年度も是非とも取り組んでいきたいと思っています。 私たちは夏休み期間中に50円バスを実施しております。これは小学生の方が乗られたらどこまで行っても50円というものです。小さい頃からバスに親しんでもらうことで、将来にわたってバスに乗っていただくことを目的にしています。 また、将来的な計画では、ICカードを導入させていただきます。コロナ禍における非接触の決済方法として、そして増えてくるであろうインバウンドの方が運賃表に戸惑うことなくバスに乗れることを目的としています。</p> <p>(4) 公共交通の利用促進事業について ※事務局より説明【資料3】</p>
<p>天野委員 (田原市商工会)</p>	<p>昨年度は事務局方々と協力して「スクラッチ大作戦」というのを開催した、ということをご報告させていただいたと思うのですが、今年度に入り田原の商工会と渥美の商工会も協力して「渥美半島ぐるっと得々クーポン祭り バス&タクシー」というものを開催させていただきました。今年度は豊鉄バスさんにも参加していただき、バス等に乗っていただいた方に「得々クーポン」を1枚差し上げて市内29の店舗で割引などの特典を受けられるサービスを開始しています。 これについては継続していくことが大事だと考えており、バスを通じて商工会のほうも活性化していければよいと考えています。</p>
<p>藤井委員 (地域コミュニティ連合会)</p>	<p>【質疑回答】 藤井委員から天野委員へ質疑</p>

<p>天野委員 (田原市商工会)</p>	<p>今後参加店舗が増えるということはあるですか。</p> <p>商工会として声掛けをさせていただいた中で、29という数字は当初の会議で30程度ではないかという予想とほぼ変わりません。</p> <p>参加業者さんについては、選りすぐりをしているといったような印象が強いです。継続していくことというのと、口コミの効果が広まっていくことが参加業者さんのお利益になると考えています。</p>
<p>藤井委員 (地域コミュニティ連合会)</p>	<p>色々な案内等出ていますが、まだまだ認知不足であると感じています。田原市民の方はお得なキャンペーンは好きだと思いますので、特集を組むなどしてコロナの収まってきているこのタイミングでPRしていただきたいと期待しています。</p>
<p>加藤議長 (名大教授)</p>	<p>皆さん「MaaS」という言葉をご存じでしょうか。要は交通機関というのが運ぶためのものだけではなく、様々な交通機関を組み合わせることで全体を楽しめるようにしようという考えです。</p> <p>今の世の中だとスマホで全てを予約できたり、デジタルチケットを発行できるようにしようという取組がMaaSと言われているのですが、実際はこの「渥美半島ぐるっど得々クーポン祭」こそMaaSではないかと思います。バスやタクシーに乗っているような場所を楽しんで、いろんなお得なことがあるよというのが具体的なMaaSの取組そのものです。</p> <p>ただ、これがチラシだけだと、チラシを見ないとわからないだとか、営業所まで切符を買いに行かないといけないというデメリットが発生してしまいます。もちろん、デジタル機器をうまく使いこなせないという方も大勢いらっしゃるのですが、そういう方に向けてチラシのほうでも継続しながら、デジタルの対応を進めていってほしいと思います。</p> <p>今やっつけていただいているのは非常に大事な取組なので市内での認知度を向上させることを目標に頑張っていただきたいと思います。</p>
<p>山内委員 (運輸支局)</p>	<p>【質疑回答】 山内委員より質疑</p> <p>利用促進事業と利用実績者の数字の増加に関して、何かリンクするようなものはありましたらお教えいただければと思います。</p>
<p>事務局</p>	<p>昨年度は皆様のご協力をいただいたこともあり、夏前に行った「ぐるりん de GO!」や「すきすきぐるりん」、「スクラッチ大作戦」、ハロウィンでのラッピングを行ったことや、ハロウィンイベントの中でぐるりんバスの周知をさせていただきました。運転手の方にヒアリングさせていただいたり、利用者の方に伺ったところ、「スクラッチ大作戦」のイベントは面白かったという評価をいただきました。</p> <p>ただ、その月の数字として反映されているかといわれると、極端な増加は見込めなかったという回答になります。</p> <p>事務局としては一つ一つこうしたイベントを積み重ねていくことで、ぐるりんバスのみならず市内の交通機関を利用してもらうきっかけができていけばよいと考えて</p>

<p>加藤議長 (名大教授)</p>	<p>います。</p> <p>こうしたイベントなどで利用者の増加が明確に現ればよいと思いますが、公共交通についてはうまく結びつかないことが多いという側面もあります。</p> <p>それでは意味がないのかと言われるとそうではなく、公共交通を利用することが頭の中になくいる人もいるので、そうした方たちの意識付けが大事になっています。</p> <p>例えば三河田原駅に公共交通を利用することで、色んなことが楽しめるというような周知チラシを設置し、そのチラシを持っていけば割引が受けられるというようなイベントをやると、チラシを持っている人が増加したり、店にもそういう人が来ることが増えたりして、効果が一目で分かりやすくなると思います。毎月違うキャンペーンをするのも手だと思います。</p> <p>今までは全体的に広く薄くイベントの傾向だが、一段階進化させたイベントを行う必要があるのではないのでしょうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>[3 協議事項]</p> <p>(1) 令和4年度事業実績・収支決算(案)について</p> <p>※事務局より説明【資料4-1、4-2】、天野監事から監査報告</p> <p>※協議事項 [承認]</p>
<p>事務局</p>	<p>(2) 令和5年度田原市生活交通確保維持改善計画(案)について</p> <p>※事務局より説明【資料5】</p> <p>【質疑回答】</p> <p>加藤議長より質疑</p>
<p>加藤議長 (名大教授)</p>	<p>【資料5】中の6.でぐるりんバスの中山線は補助の対象外になっているがどうしてでしょうか。</p>
<p>鈴木副会長 (都市建設部長)</p>	<p>うろ覚えで申し訳ないですが、当時国道259号の南側に需要のある病院があり、そこへバス停を伸ばしたいという議論が起きました。その中で路線の延長を行って、国道の北側地域から南側地域で路線を延ばす中で、幹線である、保美等の交通結節点を経由せずに運行するとフィーダー機能ではなくなってしまい、補助の対象から外れてしまうというお話でありました。</p> <p>ただ、フィーダーの補助金全体としては、他の路線で限度額に達しているため、補助の対象から外す変更をした記憶がございます。補助金の対象外になったとしても、貰える額が目減りしているわけではありません。</p> <p>※協議事項 [承認]</p>

	<p>[4 その他] (1) 意見・情報交換</p>
鈴木会長 (副市長)	<p>田原市では来年度バスを購入しようと考えています。脱炭素社会に向けて、水素か電気バスが中心になってくると思います。しかし、田原市だけではステーションが増えていくことはなく、事業者様にも水素バスや電気バス等を購入していただきたいと思います。そのための予算や整備をぜひ協力していただきたい。</p>
山内委員 (運輸支局)	<p>補助としてはグリーン化に関する補助というものがあり、3分の1の補助が出ます。水素ステーションについても設置の補助がでるかもしれません。維持管理についてもぜひ協力していきたいと思います。</p>
加藤議長 (名大教授)	<p>私も専門の範囲ですので是非協力したいと思います。直近で脱炭素のセミナーがありますので、そういったものも参考にして感覚をつかんでいただければ幸いです。</p>
中岡委員 (伊勢湾フェリー)	<p>「夏トクキャンペーン」について連絡させていただきたいです。 伊勢志摩、田原、豊橋の小学生を対象に観光にご利用いただけるように様々なイベントを開催しています。今年度から割引率がアップしており、船内イベントも増加しています。お子様にたくさん乗船していただいて、フェリーを身近に感じていただきたいと思います。</p>
加藤議長 (名大教授)	<p>フェリーというのは敷居が高く乗りにくい感じがするが、実際はそんなことはないと感じています。 どうやって乗ったらいいか分かりにくいという人も少なからずいると思います。気軽に乗っていただくことができるような、こうした取組を進めていくべきだと思います。</p>
事務局	<p>(2) 次回の開催予定について</p> <p>今回は12月または1月の開催を予定しております。主な内容につきましては、「令和4年度地域公共交通確保維持改善事業に関する自己評価」と「第2次田原市地域公共交通戦略計画の変更について」を議題とさせていただきますので、よろしく願いいたします。 本日は、ありがとうございました。</p>